

第17回 2017.11.12 SUN 10:15~16:50 御茶の水ソラシティカンファレンスセンター 日本訪問歯科医学会

プログラム・抄録集

やさしさとやりがい 訪問歯科診療 — オーラルフレイルへの対応 —

シンポジウム「訪問歯科診療におけるオーラルフレイルの対応」

教育講演「認知症の方のお口を支える基礎知識」

特別講演「オーラルフレイル — 我々医療者は国民に何を伝えるべきなのか —」

ランチョンセミナー「～ Digital Dentistry がもたらす新しい価値～ 睡眠時無呼吸症候群への対応」

会員口演・ポスター発表 スマイルフォトコンテスト

【同時開催】 歯科医師対象実習セミナー「歯科衛生士のための口腔ケアワンポイントアドバイス」

歯科衛生士対象実習セミナー「訪問歯科診療の義歯の技術」

認定医講座「訪問歯科診療における口腔機能低下の見方と対応」

認定訪問歯科衛生士講座「歯科衛生士の“伝える力”基礎講座」

認定訪問歯科コーディネーター講座 ①「訪問歯科診療の保険請求」 ②「介護保険のレセプト作成」

第17回 日本訪問歯科医学会 プログラム・抄録集

2	ご挨拶
3	会場内案内
5	プログラム
6	医学会・認定講座・実習セミナー参加の注意事項
7	シンポジウム「訪問歯科診療におけるオーラルフレイルの対応」
11	教育講演「認知症の方のお口を支える基礎知識」
12	特別講演「オーラルフレイル—我々医療者は国民に何を伝えるべきなのか—」
13	ランチョンセミナー
14	会員口演
17	ポスター発表
21	同時開催 歯科医師対象実習セミナー / 歯科衛生士対象実習セミナー 認定医講座 / 認定訪問歯科衛生士講座 / 認定訪問歯科コーディネーター講座
23	出展企業一覧
25	会場アクセス

ご挨拶



このたび、2017年11月12日(日)に第17回日本訪問歯科医学会を御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンターにて開催させていただくことになりました。

昨今、歯科界においては「オーラルフレイル」という新たな考え方が提唱されています。口から食べ物をこぼす、ものがうまく呑み込めない、滑舌が悪くなる等といった軽微な口腔機能の低下を見逃した場合、全身的な機能低下が進むことから早期の対応が必要であるという概念です。

そこで、第17回日本訪問歯科医学会のメインテーマは『やさしさとやりがい 訪問歯科診療 —オーラルフレイルへの対応—』とし、オーラルフレイルの理解と訪問歯科診療の実際を考える機会になればと考えております。

プログラムとしては、シンポジウムでは「訪問歯科診療におけるオーラルフレイルの対応」について九州歯科大学歯学科老年障害者歯科学分野教授の柿木保明先生を座長に、医師、看護師、歯科衛生士の立場からの講演とディスカッションを行っていただきます。

教育講演としては、東京都健康長寿医療センター歯科口腔外科部長の平野浩彦先生に「認知症の方のお口を支える基礎知識」について講演していただきます。

特別講演としては、オーラルフレイルの提唱者のお一人である東京大学高齢社会総合研究機構教授の飯島勝矢先生より「オーラルフレイル —我々医療者は国民に何を伝えるべきなのか—」について講演をしていただきます。

また、同時開催でサブ会場では、歯科医師・歯科衛生士を対象とした実習型セミナー・認定医・認定訪問歯科衛生士講座・認定訪問歯科コーディネーター講座を開催します。

さらに、各地域で活動している会員の歯科医院より、会員口演・ポスター発表も実施いたします。盛り沢山の内容で、訪問歯科診療の臨床で役立つ医学会にしていきたいと思っております。

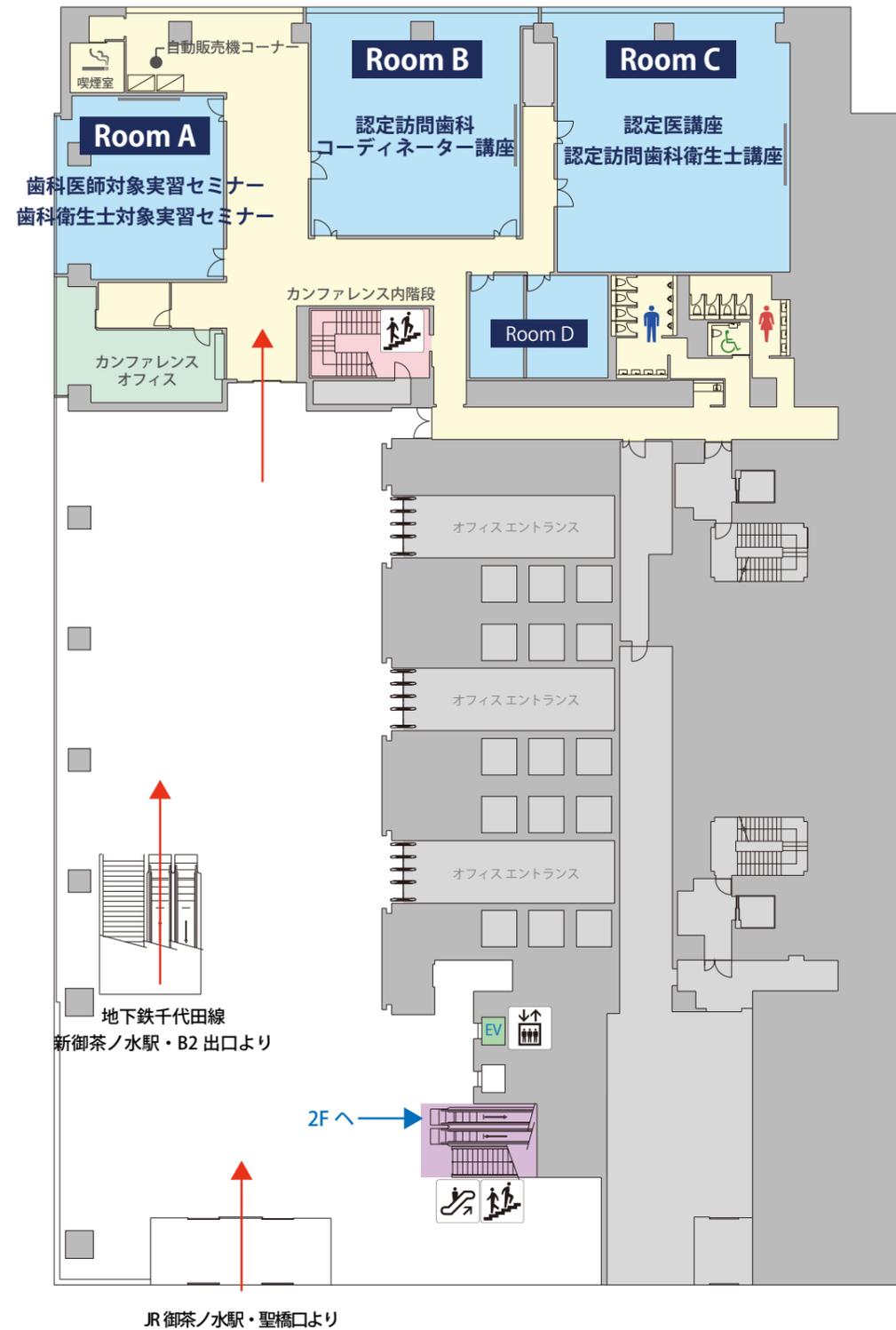
今回の日本訪問歯科医学会が、訪問歯科診療に取り組まれる皆様にとって有意義な医学会になりますよう、皆様のご協力とご参加をよろしくお願ひ申し上げます。

日本訪問歯科医学会 学会長
野坂 洋一郎

2F メイン会場 Sola City Hall・Terrace Room



1F サブ会場 (実習セミナー・認定講座 開催会場)



第17回 日本訪問歯科医学会 プログラム

11/12 (日)	メイン会場 ソラシティホール	サブ会場 Room A	サブ会場 Room B	サブ会場 Room C	展示会場 Terrace Room
9:00		8:50～ セミナー受付	8:50～ 講座受付	8:50～ 講座受付	
9:00	9:00～ 総会受付	9:00～10:20 歯科衛生士対象実習セミナー 『歯科衛生士のための 口腔ケアワンポイント アドバイス』	9:00～10:00 コーディネーター講座① 『訪問歯科診療の保険請求』	9:00～10:00 認定医講座 『訪問歯科診療における 口腔機能低下の見方と対応』	企業出展 ・ ポスター展示 ・ スマイルフォト コンテスト
9:30	9:15～09:50 第18回日本訪問歯科協会総会 認定授与式				
10:00	9:50～ 医学会受付				
10:30	10:15～10:30 開会式				
11:00	10:30～11:50 シンポジウム 『訪問歯科診療における オーラルフレイルの対応』				
12:00			11:50～ 講座受付	11:50～ 講座受付	
12:30	12:10～12:50 ランチョンセミナー 『～Digital Dentistryがもたらす 新しい価値～ 睡眠時無呼吸症候群への対応』	12:50～ セミナー受付	12:00～13:00 コーディネーター講座② 『介護保険のレセプト作成』	12:00～13:00 認定訪問歯科衛生士講座 『歯科衛生士の “伝える力”基礎講座』	
13:00	13:00～14:15 会員口演	13:00～14:00 歯科医師対象実習セミナー 『訪問歯科診療の 義歯の技術』			
14:00					ポスター審査
14:30	14:35～15:35 教育講演 『認知症の方の お口を支える基礎知識』				
15:30					スマイルフォト投票×切
16:00	15:45～16:45 特別講演 『オーラルフレイル —我々医療者は国民に 何を伝えるべきなのか—』				
16:30					
17:00	16:45～16:50 表彰・閉会式				

※ プログラムは変更することもあります。予めご了承ください。

医学会・認定講座・実習セミナー 参加の注意事項

- 本医学会・認定講座におきまして、録音・録画はご遠慮させていただいております。
また、携帯電話もマナーモードにお切り替えのうえ、会場内での通話はご遠慮ください。
- ゴミは会場内の所定のゴミ箱にお捨ていただきますようお願いいたします。
- 館内は禁煙です。所定の喫煙所をご利用ください。
- メインホールの後方の座席には、机のご用意がございません。
メモを取られる方は、下敷き・クリップボードをご持参ください。
- 主催者が記録した医学会・認定講座の参加者の映像・写真・記事記録などは主催者に帰属します。
また、この記録のメディアへの掲載権は主催者が有します。写真・映像掲載などに問題ある場合は
スタッフにお申し出ください。
- 『第17回日本訪問歯科医学会』の受付は9:50から開始となります。参加票と名札を必ずお持ちください。
 - 『第18回日本訪問歯科協会総会』に参加される方(正会員のみ)
9:00よりメイン会場にて受付を開始します。総会開始は、9:15からです。
 - 正会員以外の方
当日9:50までは、『第18回日本訪問歯科協会総会』がメインホールにて開催されております。
正会員以外の方は9:50までは、メイン会場内にご入場できませんので予めご了承ください。
 - 歯科衛生士対象実習セミナー・訪問歯科コーディネーター講座①・認定医講座にお申込みの方
8:50より1Fにて受付を開始します。各講座の参加票と第17回日本訪問歯科医学会の参加票の
2種類を1F会場受付にお渡しください。
- 名札は会場内(ロビーを含め)では、必ず見やすい位置にお吊り下げください。
- お帰りの際は、アンケート用紙と名札を座席に置いてお帰りください。

訪問歯科診療における オーラルフレイルの対応



座長

公立大学法人九州歯科大学
歯学科・老年障害者歯科学分野 教授

柿木保明 氏

高齢社会の到来で、活動低下のみられる虚弱高齢者も増加してきました。近年、このような筋力や活動の低下の状態を「フレイル (Frailty)」と呼ぶようになりました。このフレイルは口腔領域にもみられ、これらを総称して「オーラルフレイル」と呼ぶこともありますが、加齢だけの因子で生じるのではなく、複合的な因子が関連していることから、単に歯科治療や機能訓練だけに終始しないように配慮する必要があります。

そこで今回は、オーラルフレイルと関わりの深い専門領域の方々から、効果的な対応と予防についてお話していただきたいと考えています。シンポジウムでは、私から歯科医学的な現状と対応についてお話をさせていただいた後に、まず高齢者医療の立場から、厚生労働行政の委員なども数多く歴任されている国立長寿医療研究センター内科総合診療部の遠藤英俊先生に基本的な解説をしていただきます。ついで老年看護の立場から、日本赤十字広島看護大学の迫田綾子先生にお話をいただきます。先生は、歯学部附属病院勤務を経て、老年看護に関する研究、教育、臨床に活躍されておられますので、口腔ケアや歯科診療にも造詣が深く、その多くのご経験から、臨床的な対応も含めお話いただけます。そして、歯科衛生士の立場からは、歯学部附属病院勤務を経て、高齢者医療と急性期医療の現場にも携わった経験のある北九州市立医療センター歯科の中村真理氏に、自然医学や医科歯科連携を考慮した対応についてもお話いただきます。

今回のシンポジウムが、今後、歯科訪問診療や口腔ケア、摂食機能療法などに携わる専門職の方々にとって「オーラルフレイル」へのさらなる理解と予防に取り組むきっかけになれば幸いです。

プロフィール

1980年 九州歯科大学卒業
1980年 産業医科大学附属病院歯科口腔外科 専修医
1981年 国立療養所南福岡病院 歯科医師
1988年 同 歯科医長
2005年 九州歯科大学 教授 摂食機能リハビリテーション学分野
2010年 九州歯科大学 附属図書館長 兼 口腔保健学科長
2012年 九州歯科大学附属病院 副病院長
2013年 九州歯科大学 副学長 附属病院長
2016年 九州歯科大学 歯学科・老年障害者歯科学分野 教授

- 日本歯科東洋医学会 副会長、教育カリキュラム委員会委員長
- 日本障害者歯科学会 理事、指導医、医療保険委員会委員長
- 日本老年歯科医学会 指導医、専門医
- 日本口腔ケア学会 理事、認定指導者
- 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会 認定士(歯科医師)
- 日本デンタルアロマセラピー協会 理事長
- 福岡口腔ケア研究会 会長
- 介護支援専門員
- 労働衛生コンサルタント その他

〔主な著書・TV出演〕

『歯科漢方ポケットブック』著/永末書店(2014)
『歯科医師・歯科衛生士ができる舌診のすすめ!』編著/ヒューロン(2010)
『口腔乾燥症の臨床』編著/医歯薬(2008)
『看護で役立つ口腔乾燥と口腔ケア』編著/医歯薬(2005)
『歯科漢方ハンドブック』著/KISOサイエンス社(2005)
『唾液と口腔乾燥症』編著/デンタルハイジーン別冊 医歯薬(2003)
『臨床オーラルケア』編著/日総研(2000)
『障害者歯科ガイドブック』分担執筆/医歯薬
『たけしの家庭の医学』テレビ朝日(2010年3月2日)
『世界一受けたい授業』日本テレビ(2012年5月12日)
『駆け込み!ドクター』TBS(2013年9月22日/2014年11月9日)
『ホンマでっか!?TV』フジテレビ(2014年6月4日)
『たけしの家庭の医学』テレビ朝日(2014年11月4日/2015年8月1日)



シンポジスト

国立長寿医療研究センター
長寿医療研修センター長

遠藤 英俊 氏

訪問歯科と認知症

2025年には、認知症とされる人が700万人を超えると予想されており、歯科医においても認知症患者は在宅であれ、診療対象となりうるのです。認知症には、記憶障害以外にもコミュニケーション障害や行動心理症状があり、医療職には認知症に対しての適切な知識や、適切な対応が求められることとなります。

そのような状況を受け、2016年には、厚労省による『かかりつけ歯科医』の認知症対応力向上研修も都道府県で開始され、多くの歯科医の参加が望まれています。具体的には、高齢患者では歯科治療に限らず、口腔ケアや嚥下対応も必要になります。また、訪問歯科診療においては、医師や介護支援専門員にはじまり、薬剤師やリハビリ職にとどまらず、管理栄養士など多職種との連携も必要とされます。さらに、通常の歯科診療以外に認知症への対応や介護保険制度に関する知識も必要になってくるでしょう。

今回のシンポジウムでは、認知症の基礎知識、歯科医師、歯科衛生士に必要な新しい知識や、今後の診療に役立つ知識を提供したいと考えています。

プロフィール

滋賀医科大学卒業
名古屋大学医学部大学院修了
米国国立老化研究所客員研究員
国立療養所中部病院内科医長 などを経て現在に至る

〔主な著書〕

『かかりつけ医のための認知症マニュアル』(社会保険研究所)
その他多数



シンポジスト

日本赤十字広島看護大学
特任教授 認定看護師教育室長

迫田 綾子 氏

適切なポジショニングは、フレイルを予防できるか

「オーラルフレイル」の始まりは自覚症状に乏しいため、日常の食事や口腔ケア時の反応を丁寧に観察することで早期発見につながります。口腔機能の低下は、全身の筋力低下とも関連し、姿勢が保てない、自分で食べられない、咳ができないなど全身状態が影響する。姿勢を整えることは、生活を整え自分らしく暮らす一助になると考えている。

今回紹介する「POTT(ぽっと)プログラム」は、ベッド上リクライニング位、車いすシーティングの基本技術の一部で、プログラムの目的は、①適切なポジショニングで食べる喜びを伝える、②食事の自立支援と誤嚥予防、③摂食嚥下機能に合わせた食事介助、④教育方法の普及、⑤ケア技術力や教育力の向上にあります。本プログラムは、口腔ケアだけでなく、嚥下評価、間接訓練、直接訓練、食事時などの基本技術となるもので、在宅訪問時はもちろん、在宅療養者が日々の暮らしの中で、安全で安楽な姿勢で過ごすという基本的なニーズを満たせることを願っています。

今回のシンポジウムでは、適切なポジショニングは、フレイルの予防に貢献できるか否か、参加者との意見交換もできればと考えています。

POTTプログラム：

ポジショニング(PO)で食べる(T)喜びを伝える(T)の略称で、呼びやすく願いを込めた名称です。詳しくは、ホームページをご参照下さい。

<http://pott-program.jp/>

プロフィール

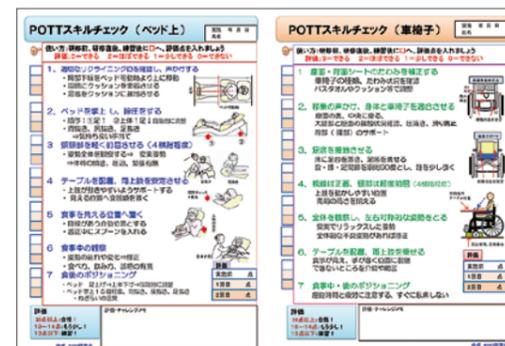
- 1969年 広島大学医学部附属看護学校卒業
広島大学歯学部附属病院勤務
- 1991年 仏教大学社会学部社会福祉学卒業
- 2001年 広島大学大学院医学系研究科博士課程前期修了
地域看護学専攻
- 2001年 日本赤十字広島看護大学看護学部 老年看護学基礎看護学教授
- 2009年 摂食・嚥下障害看護認定看護師教育課程開講
主任教員 特任教授
- 2017年 ひろしまナインテール賞受賞

2009年より「誤嚥を予防するポジショニングと食事ケア」の関連研究や教育、現在、病院や地域でPOTT(ぽっと)プログラムの技術伝承中

- 口腔ケア研究会ひろしま代表
- NPO法人看護アカデミア幸副理事長
- 日本摂食嚥下リハビリテーション学会評議員 学会認定士

〔主な著書・TV出演〕

- 『ナース必携 誤嚥を防ぐ食事時のポジショニング』三輪書店(2013)
 - 『根拠がわかる老年看護技術』メヂカルフレンド社(2013)
- ほか多数



シンポジスト

北九州市立医療センター 歯科口腔ケア外来 歯科衛生士長
日本デンタルアロマセラピー協会 副理事長
九州歯科大学附属病院口腔環境科登録歯科衛生士

中村 真理 氏

私は、大学付属病院勤務時代の経験から、歯科領域における不定愁訴や口腔周囲筋の過緊張に対し、補完代替療法としてのアロマセラピーを用いた研究、患者教育に取り組んでまいりました。やさしい香りの脳への刺激や、声かけによる心の緊張緩和を促すと、五感に働きかける口腔ケアが可能になり、口腔周囲筋の過緊張もほぐれやすくなります。また、唾液腺や頭頸部を含む口腔周囲筋の効果的なマッサージなどを行うと、歯軋りの緩和や、開口困難が改善、舌運動が促進するなど、口腔機能の向上に効果がみられました。慢性期の病院勤務では医療、介護療養病棟の入院患者に対し、状態に応じた口腔機能の維持・向上のための口腔ケアと、訪問歯科診療のコーディネートを多職種と連携をしながら口腔管理として実践してまいりました。

私は、歯科衛生士が担うオーラルフレイルへの対応は、歯科衛生士が口腔ケアを確実に行うというだけでなく、正しい義歯の使用がされているか、会話、表情、味覚や嗅覚、また、おはしやスプーン、歯ブラシなどをつまむ、持つ、握るといった筋肉、体を支える筋肉の衰えも含めた捉え方で、個人の状態に応じた口腔機能を支援することが大切であるとともに、歯科衛生士が常にいない現場でも、基本の口腔ケアが正しく日常的に行われているような環境づくりに取り組むことも大切であると考えます。そのために、日常的に口腔ケアにかかわる方に、口腔観察、効果的な口腔ケアの仕方、正しい義歯の使用、保管、管理の仕方、歯科医師に紹介すべき口腔内の異常などについて、より深く認識していただき、協働していけることが必要であると考えます。

急性期の病院では、特に高齢の方、抗がん剤治療のため嘔気や食欲不振などで義歯を外したまま過ごされていたり、長期の経管栄養や、術後すぐに退院できず医学的管理が必要な方は、口腔乾燥や開口困難、低圧舌などの口腔機能の低下がみられるのを実感しています。退院後も良好な口腔環境を維持するにはかかりつけ歯科の役割が大きく、情報の共有の下に行う連携は重要であり、慢性期、急性期に関らず口腔機能の衰えを見つけ、支援するという事は、口腔機能の低下予防、機能の向上にとっても大切であると考えます。現在、研修会などで関らせて頂いております地域の地域デイスービスのケアマネージャーはじめ、看護職介護職の方々への口腔機能に関するアンケートの結果もふまえて歯科衛生士としての役割を改めて考えてみたいと思います。

プロフィール

福岡歯科大学附属歯科衛生専門学校を卒業
九州歯科大学附属病院勤務
慢性期病棟の北九州八幡東病院口腔管理室主任として勤務
現在に至る

- 北九州市立医療センター 歯科口腔ケア外来 歯科衛生士長
(口腔ケア推進担当係長、地域医療連携推進担当係長)
- 日本デンタルアロマセラピー協会 副理事長
- 九州歯科大学附属病院口腔環境科登録歯科衛生士
(デンタルアロマカウンセリング)

日本健康心理学会認定健康心理士、IFA国際アロマセラピスト、AEA日本アロマ環境協会認定アロマセラピスト・インストラクターなどの認定資格を取得。歯科領域における不定愁訴、患者教育、口腔ケアおよびリハビリに活用して成果を上げている

認知症の方のお口を支える基礎知識



東京都健康長寿医療センター 歯科口腔外科 部長
平野 浩彦 氏

世界保健機関(WHO)の報告(2012年)では、世界の認知症有病数は約3,560万人と推定され、2030年までに2倍の6,570万人、2050年までに3倍の1億1,540万に増えると予測されています。我が国においても2013年に厚生労働省の研究班から、462万人の認知症患者が存在するとの報告がなされており、認知症は特別の疾患ではなく“身近な病気(common disease)”になっているのです。以上の状況を踏まえ、2015年1月に新オレンジプラン(認知症施策推進総合戦略)が発表されました。このプランは、①認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進 ②認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供 ③若年性認知症施策の強化 ④認知症の人の介護者への支援 ⑤認知症の人を含む高齢者にやさしい地域作りの推進 ⑥認知症の予防法、診断法、治療法、

リハビリテーションモデル、介護モデル等の研究開発の推進 ⑦認知症の人やその家族の視点の重視、以上7本の柱で構成されています。

以前より認知症初期集中支援チームとかかりつけ歯科医は連携を取ることを求められていましたが、さらに早期診断・早期対応のための体制整備を目的に歯科医師の認知症対応力向上研修実施が明文化され、平成28年度から全国で研修会が実施されています。

当講演では、オレンジプランの2つ目の柱の視点を基軸に、「認知症の容態に応じた適時・適切な歯科医療およびケアの提供」について、ご参加の皆様と考える機会を持たせていただければと思います。

〔講師プロフィール〕

日本大学松戸歯学部卒業 医学博士
1990年 東京都老人医療センター 歯科口腔外科 研修医
1991年 国立東京第二病院 口腔外科 研修医
1992年 東京都老人医療センター 歯科口腔外科 主事
2002年 同センター 医長
東京都老人医療センター・東京都老人総合研究所の組織編成により
東京都健康長寿医療センターへ名称変更
2009年 東京都健康長寿医療センター 研究所 専門副部長
2016年 東京都健康長寿医療センター 歯科口腔外科 部長

- 日本老年学会 理事
- 日本サルコペニア・フレイル学会 理事
- 日本応用老年学会 理事
- 日本老年歯科医学会 理事・専門医・指導医
- 日本大学 客員教授
- 東京歯科大学 非常勤講師
- 昭和大学歯学部 非常勤講師
- 東京医科歯科大学歯学部 非常勤講師
- 九州歯科大学歯学部 非常勤講師

〔主な著書〕

『実践!認知症を支える口腔のケア』監修・共著 / 東京都高齢者研究・福祉振興財団
『認知症ライフパートナー検定試験応用テキスト』共著 / 日本認知症コミュニケーション協議会
『口腔の緩和医療・緩和ケア』編集・共著 / 永末書店
『認知症の人の摂食障害 最短トラブルシューティング』共著 / 医歯薬出版
『認知症高齢者への食支援と口腔ケア』編著 / ワールドプランニング社
『完全版 介護予防マニュアル』共著 / 法研
『実践!オーラルフレイル対応マニュアル』編者 / 東京都福祉保健財団

オーラルフレイル — 我々医療者は国民に何を伝えるべきなのか —

東京大学 高齢社会総合研究機構 教授
飯島 勝矢 氏



健康長寿を延伸するために、虚弱予防活動に重要を置いてきたわけですが、果たしてわが国は何を残すことが出来たのでしょうか。超高齢社会に向かう中で、「フレイル(Frailty:虚弱)」の予防は重要であり、なかでも高齢者における食の安定性を改めて再考する必要があります。そこで高齢者における『食力(しよくりき)』というものに改めて焦点を合わせ、医科〜歯科の視点だけではなく、社会的側面も含めた大局的な視点からアプローチすることを試みました。

私が仕掛けている大規模縦断追跡コホート調査の結果から、特にサルコペニアを軸とするフレイルの解析を行っていくと、早期の所見として歯科口腔分

野の軽微な機能低下や食の偏りも認められました。それを改めて『オーラルフレイル』として新概念を打ち立て、高齢者の食力を維持〜向上させるために今まで以上に総合的な機能論でこだわっていくと同時に、社会的フレイルも含めた「多面的なフレイルへの一連のアプローチ施策」を各職能ごとにどのように再認識するのが大きな鍵になると考えます。

フレイル予防はまさに「総合知によるまちづくり」そのものであり、演者の最新の取り組みも交えながら、新概念『オーラルフレイル』から何を狙うのかを議論したいと思います。

〔講師プロフィール〕

東京大学大学院医学系研究科加齢医学講座講師、米国スタンフォード大学医学部研究員を経て、現在、東京大学高齢社会総合研究機構教授。内閣府「一億総活躍国民会議」有識者民間議員にも就任。

専門は老年医学、老年学(ジェロントロジー:総合老年学)。専門研究分野として、特に①フレイル予防の高齢者大規模コホート研究および包括的フレイル予防プログラム構築。なかでも新概念「オーラルフレイル」を構築し、口腔機能の些細な低下を国民に啓発する運動論とエビデンス構築、②千葉県柏市をフィールドとする課題解決型実証研究(アクションリサーチ)を基盤とした長寿社会に向けたまちづくり・地域包括ケアシステム構築、③在宅医療に関する推進活動と臨床研究、およびその大学卒前教育や多職種連携教育。

近著に「老いることの意味を問い直す —フレイルに立ち向かう—」

～Digital Dentistryがもたらす新しい価値～ 睡眠時無呼吸症候群への対応

守口歯科クリニック 副院長

守口 和 氏

睡眠時無呼吸症候群の推定人口は、400万人といわれており、耳鼻咽喉科、呼吸器科、睡眠外来のある神経内科等から紹介されてくる患者さんも増えてきています。今後、スプリント治療など歯科の対応が、ますます注目されてくることが予想されています。

睡眠時無呼吸症候群の患者さんへの歯科の対応は、医科との連携、さらに患者さんが抱える他の疾患への理解、そして適切な口腔内装置製作のスキルが欠かせません。

このセミナーでは、一般的に広く治療法として選択されている、CPAP(経鼻的持続陽圧呼吸法)とOA(スプリント治療)について、適応の範囲や治療法などを解説します。

また、最新ソリューション「SICST AIR」を用いた睡眠時無呼吸症候群への新しいアプローチをご提示していきたいと思えます。

● 講師プロフィール ●



守口 和 氏
守口歯科クリニック 副院長

1999年 岩手医科大学歯学部卒 歯科医師国家試験合格
岩手医科大学 歯科 放射線科勤務
2000年 守口歯科クリニック勤務 副院長
2001年 米国(USC)南カリフォルニア大学歯学部留学
2004年 メデントインスティテュートエグゼクティブインストラクター
一本木歯科クリニック勤務
2005年 スウェーデンイエデボリ大学顎顔面口腔外科学留学
2011年 ニューヨーク大学インプラント科CDE卒

- E.A.O. (ヨーロッパインプラント学会アクティブメンバー)
- University of Southern California School of Dentistry Century Club in Japan Section
- 日本訪問歯科協会会員
- 日本訪問歯科協会認定医
- 歯科放射線学会会員
- NPO法人 歯科学研究所インプラント 認定医
- ICOIインプラント国際学会会員
- ICOI東北支部長
- ISCD国際セレック認定医
- JSCAD会員



13:00-13:25



歯科訪問診療を成功に導くために必要なこと —なぜ歯科訪問診療が健康寿命の延命に寄与するか—

医療法人 寛友会 浅賀歯科医院 (埼玉県) 浅賀 勝寛 氏

現在、日本は超高齢社会を迎えている。医療技術の進歩に加え、健康志向が高まったことにより、日本全体の平均寿命が延びている。2016年、厚生労働省の調査では、日本の平均寿命は女性が87.14歳、男性80.98歳である。平均寿命が伸びることは大変喜ばしいことだが、ここには、健康寿命という考え方が抜け落ちている。平均寿命と健康寿命の差は男女共に10歳以上ある。つまり、10年以上の間、高齢者は介護が必要な状態になるとも言える。

歯科訪問診療は、口腔ケア、治療、リハビリテーションの分野を軸に高齢者の健康寿命を延命することに寄与している。健康寿命が延びることは、高齢者のQOLの向上と共に社会保障負担の軽減にも繋がる。

歯科訪問診療は注目されつつあるが、国民からの認知度は低い。それは命に直結しないと考えられているから、患者にとっての重要度が低下してしまっている。

しかし、この長寿社会で人が自分の力で自分らしく生涯を終えることが最も大切である。健康寿命の延命が期待できるのは歯科訪問診療という認識を日本全体が知ること大切だが、まず、歯科従事者がより深くこのことに精通していなくていけない。

その一歩として、歯科訪問診療がなぜ健康寿命の延命に繋がるかを伝えたい。

● プロフィール ●

2013年 日本大学歯学部卒
2014年 日本訪問歯科協会所属の二木歯科医院で研修
2015年 浅賀歯科医院勤務
2016年 浅賀歯科医院院長就任

日本口腔インプラント学会会員
日本インプラント臨床研究会会員
日本歯周病学会会員
JIADS会員
日本大学歯学部歯科保存学教室第III講座(歯周病科)所属
日本摂食嚥下リハビリテーション学会会員
日本老年歯科医学会会員
歯科医師臨床研修指導歯科医講習会修了

口演
2

13:25-13:50



開業医が行っている現場で 本当に役に立つ実践テクニック

天の川歯科（三重県） 福島 敦司 氏

①口腔ケアをしなくて良いと言う患者さんに どうしたらいいか？

往診で1番困ってしまう患者さんは、入れ歯の修理や作成が終わってしまうと口腔ケアはもう要らないと言う患者さんだと思います。ひどい場合は、初診で入れ歯が治ったので、もう今すぐ帰ってくれと言ってこられる患者さんもいらっしゃいました。このように断ってくる患者さんにどのようにして継続的な治療をうけていただいたら良いのでしょうか？

②全く口を開いてくれない患者さんに どうやって印象を取ったら良いか？

往診に行くに必ず出くわすのが、こちらの言うことを全く聞いてくれない患者さんです。例えば、口を全く開いてくれない患者さん。あるいは腕をぶんぶん振り回してくる患者さん。あるいはひたすら逃げまわる患者さん。このような方に印象を取るにはどのようにしたらよいのでしょうか？

③全く口を開いてくれない患者さんに どうやってバイトを取ったら良いか？

口を全く開いてくれない患者さん、あるいは全くこちらの言うことを聞いてくれない患者さんのバイトを取るにはどのようなすればよいのでしょうか？ 今までのお湯や火炎で軟化するやり方では絶対に不可能だと思います。ここではわずか1分で完璧にバイトを取る方法について説明させていただきたいと思います。

④入れ歯がバカバカと落ちてくる浮いてくる患者さんに どうしたら良いか？

さらに、もっと日常的に遭遇する患者さんは、入れ歯が落ちてくる、あるいは浮いてくる患者さんです。あるいはこちらが作成した入れ歯が落ちてきたり浮いてきたり目も当てられません。そのような時に即効性があるって簡単に完璧に吸着させる方法は無いのでしょうか？ 衆人環視の中でも完璧に落ちてこなくなる、浮いて来なくなるテクニックをご教授させていただきます。

⑤往診をメインとする開業医にどのようにしたら なれるか？

歯科医師ならば1度は誰もが必ず夢見るのが往診をメインとする開業医ではないかと思えます。しかし、ただ待っていても、ある日急にその素晴らしい立場になれるわけではありません。誰かが往診の患者さんを紹介してくれるわけでもないですし、またやり方もどこにも書いてないと思えます。ここではどのようなやり方で具体的にそのように持っていくのか、そのやり方について詳しく説明したいと思います。

- プロフィール ● 1994年 鹿児島大学歯学部卒
- 1994年 京都大学医学部大学院入学
- 1996年 大阪歯科大学歯学部大学院入学
- 1999年 平成台歯科開業
- 2009年 天の川歯科開業

口演
3

13:50-14:15



さまざまなメディカルスタッフ協調のもと VE検査を行い舌接触補助床を装着した 患者様に関する考察

医療法人社団 有心会 クリア歯科医院（兵庫県） 高橋 貴士 氏

はじめに VE検査後、総義歯を舌接触補助床として装着した1症例について報告する。

目的 介護老人保健施設において肺炎を繰り返す患者様のVE検査を行いました。患者様への適当だろうと思われる食事形態・方法について看護師、言語聴覚士、管理栄養士などと協調し患者様へフィードバックするのが目的。

方法 聴診器を用い喉頭部の唾液など貯留音の有無を確認する。鼻腔から先端部にキシロカインゼリーを塗布した内視鏡を挿入しアー・イー・ウー・エー等と発音していただき声門閉鎖状況・鼻腔閉鎖機能状態を確認する。また、唾液を嚥下していただき(空嚥下)声門へ入っていないか確認する。その後さまざまな濃度・形態の食事をしていただき歯科医師・看護師・言語聴覚士・管理栄養士などとモニター観察しながら口腔内での食塊形成能・誤嚥の有無・食塊がうまく咽頭へ流れているか・嚥下反射の惹起状態(ホワイトアウト)の確認などを行い、一番適切だと思われる食事内容をさまざまなメディカルスタッフとともに考える。

- 対象**
- 99歳女性 / 介護老人保健施設入所中
 - 現病歴：慢性肺炎、慢性心不全
 - 歩行困難、車椅子生活

結果 唾液の誤嚥(顕性誤嚥)はほとんど認められなかった。声門閉鎖も良好。舌運動は良好だが口唇の動きがやや悪い。食塊がなかなか口腔内から咽頭部へ流れにくく嚥下回数が多くなってしまい疲労が蓄積し食事をやめられてしまう。食塊を舌の奥に置くと送りこみが容易な感じがする。また、とろみ濃度が強ければ誤嚥が少ない。

考察・まとめ 嚥下機能にはさほど問題はなく、準備期の問題であると考えられる。ご家族の御了解を得て、上下総義歯を作成し、義歯を食塊形成と送りこみを容易にするという意味合いの舌接触補助床として機能させることにした。総義歯装着当初は違和感が強いようで、食事時に外されることが多かったが、現在は総義歯を装着して食事をされ誤嚥性肺炎もなくなっている状態である。総義歯が舌接触補助床として食塊の送り込みを容易にし、食塊が咽頭部に停留することが少なく誤嚥もしにくい状態になっていると考えられる。

- プロフィール ● 神戸市生まれ
- 徳島大歯学部卒
- 岡山大学第一保存科勤務
- 兵庫県内の病院歯科や開業医勤務

ポスター
発表
01

「口腔ケア関連性肺炎」の減少を目的とした訪問診療での取り組み

医療法人顕樹会 本田歯科クリニック（京都府） 西林 貴子 氏 | 船山 高明 氏

目的 高齢者に対して積極的な口腔ケアが誤嚥性肺炎の予防に効果があるといわれて久しいが、未だに他診療科よりその効果が疑問視される場合も珍しくない。その一つとして歯科医師や歯科衛生士が介入してから誤嚥性肺炎を生じたという、いわゆる「口腔ケア関連性肺炎」の問題がある。

今回、口腔ケアの方法を次亜塩素酸水使用に切り替えた訪問患者で誤嚥性肺炎が減少した症例について報告し、その有用性を検討する。

対象と方法 使用した次亜塩素酸水は「タンパク分解型除菌水」である。当院にて口腔ケア介入前後で、誤嚥性肺炎と判断できた18例について、その後、次亜塩素酸水を使用した口腔ケアに変更してからの経過を観察した。その結果18例中11例については誤嚥性肺炎について改善が見られた。

結果と考察 この除菌水は、口腔内にて、まずバイオフィルムを破壊した後、その中に存在する細菌群を殺菌するという二段構えの作用機序がある。（『訪問診療においてタンパク分解型除菌水を局所使用し症状が改善した例』第16回日本訪問歯科医学会）

「口腔ケア関連性肺炎」の発症原因の一つにバイオフィルムの剥離とその内部に存在する細菌群の誤嚥が指摘されている。

今回の結果はバイオフィルムの処理まで意識した口腔ケアを実施することで、「口腔ケア関連性肺炎」のリスクが減少する事を示唆している。

● プロフィール ●



医療法人顕樹会 本田歯科クリニック
西林 貴子 氏

1994年より歯科衛生士として院内および訪問診療を行う
2004年より医療法人顕樹会本田歯科クリニック訪問診療部勤務



医療法人顕樹会
船山 高明 氏

1991年 岡山大学歯学部卒業
現在、医療法人顕樹会勤務

ポスター
発表
02

次亜塩素酸水とポリリン酸配合ジェルを用いた口腔ケアが口腔領域悪性腫瘍患者のQOLに寄与した例

医療法人顕樹会 本田歯科クリニック（京都府） 飛田 薫 氏 | 船山 高明 氏

目的 訪問診療対象患者が口腔悪性腫瘍に罹患した場合、全身状態等の理由により腫瘍の根治術が出来ないばかりか、本人や家族の希望もあり腫瘍の治療そのものを行わない症例に度々遭遇する。その様な場合は、口腔内の清掃状態は患者のQOLを大きく左右する。

今回、口腔内悪性腫瘍患者に対して、次亜塩素酸水およびポリリン酸ジェルを用いた口腔ケアを行ったところ、当初の予想よりも良いQOLを辿った症例を認めたので報告する。

症例と処置 地域病院より投薬処置、訪問歯科衛生士による口腔ケアを行うも、症状改善しないため、協力病院歯科口腔外科を受診した。その後、同科内炎の一部は悪性腫瘍と診断され、余命一年と宣告される。しかし患者と家族と協力病院との間で腫瘍に対する治療はせず鎮痛等の対処療法に留める事で合意した。悪性腫瘍診断前後より、口腔ケアを次亜塩素酸水とポリリン酸配合ジェルを用い

た方法に変更し歯科衛生士による訪問診療を続けた。すると、口内炎等病変サイズの減少を認め、日常生活における疼痛の訴えも激減した。また、そのような軽減状態が約一年以上続いた。

結果と考察 高齢者で悪性腫瘍患者の場合、根治的な治療を強行するより、苦痛を与えず平穏に余生を過ごす方針を選択した方が患者のQOLを高める場合が大多数と思われる。

今回の次亜塩素酸水とポリリン酸ジェルを用いた事が腫瘍に対して直接効果があったとは考えにくい。しかし、少なくとも二次的な炎症等に対する効果はあったと考えられ、在宅診療における積極的な口腔ケアの重要性を改めて示唆する結果となった。

● プロフィール ●



医療法人顕樹会 本田歯科クリニック
飛田 薫 氏

2013年 歯科衛生士として5年間従事した後、訪問歯科衛生士として勤務
2015年より医療法人顕樹会本田歯科クリニック訪問診療部勤務



医療法人顕樹会
船山 高明 氏

1991年 岡山大学歯学部卒業
現在、医療法人顕樹会勤務

ポスター
発表
03

頸部、口腔周囲の緊張緩和を中心とした 摂食嚥下リハビリテーション症例

医療法人社団大栄会 名古屋桜通デンタルクリニック・知立デンタルクリニック（愛知県）
大橋 新史 氏 | 〈共同発表者〉 林 雅子 氏・原田 知佳 氏

目的 全身筋肉の萎縮、硬直化を惹起した患者に対して、頸部、口腔周囲の緊張緩和を中心としたリハビリテーションより、摂食嚥下障害を改善する。

方法 (ア) リハビリテーションの流れ
① 嚥下機能の評価
② 安全な食形態、摂食方法の検討
③ 間接訓練
● 頸部の緊張緩和
（頸部のマッサージ、頸部の可動域訓練）
● 口腔周囲の緊張緩和
（口唇・頬のマッサージ、舌の可動域訓練）
● 構音訓練
④ 直接訓練
⑤ 嚥下機能の再評価

(イ) 症例
● S.O. (82歳、女性): 脳梗塞

● Y.S. (80歳、女性): 認知症、骨粗鬆症、高血圧
● A.S. (92歳、女性): 認知症
● S.S. (84歳、女性): 認知症
● T.M. (70歳、男性): 脳梗塞、糖尿病
※ いずれも全身筋肉の萎縮、硬直化が認められた。

結果と考察 上記5症例において、摂食嚥下障害が改善された。全身筋肉の萎縮、硬直化は、食事姿勢の崩れを招き、摂食嚥下障害の原因になる。これは、体のバランス維持のために、舌骨上筋群が嚥下ではなく姿勢保持に使われるからである。そのため、全身筋肉の萎縮、硬直化による摂食嚥下障害を持つ患者へのリハビリテーションは、頸部、口腔周囲の緊張緩和が要となる。

● プロフィール ●



医療法人社団大栄会 名古屋桜通デンタルクリニック・知立デンタルクリニック
大橋 新史 氏
松本歯科大学卒業
愛知学院大学大学院卒業
現在、医療法人社団大栄会 名古屋桜通デンタルクリニック・知立デンタルクリニック勤務



医療法人社団大栄会 知立デンタルクリニック
林 雅子 氏
専門学校名古屋デンタル衛生士学院卒業
現在、医療法人社団大栄会 知立デンタルクリニック勤務



医療法人社団大栄会 知立デンタルクリニック
原田 知佳 氏
岐阜県立衛生専門学校卒業
現在、医療法人社団大栄会 知立デンタルクリニック勤務

ポスター
発表
04

訪問歯科に求められる 疾病の特性を考慮した個別化医療

医療法人伸整会 サン歯科医院（埼玉県） 秋元 宏恵 氏

この度は、日本訪問歯科医学会におきましてこのような発表の機会をいただきましてありがとうございます。常日頃お支えをいただいております医療法人の理事長先生をはじめ諸先生方、スタッフの方々、他職種の皆様、地域の方々、患者様ご本人ならびに、ご家族様方に感謝を申し上げたいと存じます。

伸整会では、現理事長が16年前より日本訪問歯科協会のサポートのもと、現在の訪問歯科診療の基盤を築き上げていただき、私達が続けさせていただいております。

今回、発表させていただくのは、下記の2症例です。

【ケース1】歯肉癌 A様

1. 高齢者の癌の特性（腫瘍の性質・身体機能・依存疾患）に適した治療法は何か

1. 治療が望めない・望まない場合の緩和的医療

1. 個人・ご家族の緩和的医療

【ケース2】埋もれている患者 B様

ご近所の方々との交流は、それなりにあったものの、行政が介入するまで、医療機関への受診歴は不明。このような困窮の中に、声をあげたくてもあげられない方々を一人っきりにしない社会の仕組みが必要と感じましたので、今回の症例として取り上げました。

上記の症例を通し、ご覧いただいた皆様のご意見を聞かせていただけたらと思います。

● プロフィール ●



医療法人伸整会 サン歯科医院
秋元 宏恵 氏
奥羽大学歯学部卒業
医療法人伸整会 サン歯科医院
高木歯科医院 勤務
日本摂食嚥下リハビリテーション学会
日本有病者歯科医療学会
日本審美歯科学会
日本アンチエイジング歯科学会 認定医

● サブ会場 Room A / 9:00 - 10:20

歯科衛生士対象実習セミナー

歯科衛生士のための 口腔ケアワンポイントアドバイス



NPO法人健口サポート歯るる 副理事長
平松 満紀美 氏

第17回日本訪問歯科医学会での歯科衛生士対象実習セミナーは、『歯科衛生士のための体験セミナー』として開催している、通常6時間セミナーから“最重要ポイント”を抜粋した、実践的な実習セミナーの内容となっております。今回のセミナーでも、介護用ベッドを用いて口腔ケアや食事の際のポジショニングを解説し、参加者のみなさんには実際に患者さんの立場になって体験して頂きます。その他にも、スポンジブラシの扱い方や、トロミの付け方や、バナナを使って食形態を決める手法などもお伝えいたします。全てが、患者さんの立場になり、実際に体験して頂くセミナー内容となっております。訪問歯科衛生士として、おさえておきたい必須情報をお伝えさせていただきます。

講師プロフィール

ア歯科島田診療所、徳島県池田保健所、徳島県西部総合県民局を経て現在フリーランス。
訪問口腔ケア担当、口腔ケアセミナー・健口教室講師など

- NPO法人 健口サポート歯るる副理事長
- 歯科衛生士スタディグループ『歯っするメイト』代表
- 口腔ケアサポートグッズ『発するライト』考案
- 公益社団法人日本歯科衛生士会 生活習慣病予防(特定保健指導)認定
- 公益社団法人日本歯科衛生士会 在宅療養指導(口腔機能管理)認定
- 公益社団法人日本歯科衛生士会 摂食嚥下リハビリテーション認定
- 岡山大学 摂食嚥下リハビリテーション上級コース修了
- MDE認定 デンタルエステティシャン
- 一般社団法人TOUCH認定 口腔機能指導士

● サブ会場 Room B / 9:00 - 10:00

認定訪問歯科コーディネーター講座 ①

訪問歯科診療の保険請求

一般社団法人 日本訪問歯科協会 医療事務研究班
畔地 琳琳 氏

訪問診療は外来と比べて、提供する文書の多さや、介護保険の請求が発生など非常に複雑です。また、高点数での個別指導にあたっては安心して訪問診療に取り組むためには、医療事務をしっかりと理解する必要があります。この講座では、訪問歯科診療で必要な医療事務のポイントを解説いたします。

● サブ会場 Room A / 13:00 - 14:00

歯科医師対象実習セミナー

訪問歯科診療の義歯の技術



一般社団法人 日本訪問歯科協会 理事長
守口 憲三 氏

訪問診療の依頼で最も多いのが、「入れ歯が合わない」というものです。総義歯の作製では、すべての工程で患者さんの協力が不可欠です。しかし、訪問診療では協力が難しいケースが多くあります。認知症の方など意思疎通が難しい場合、また、脳血管疾患の片麻痺の方は、咀嚼筋舌に障害があることがあります。また、オーラルディスキネジアの症状がある方は、筋肉の不随意運動により舌や下顎が不随意に動いてしまいます。これは、パーキンソン病の薬の副作用でも出やすい特徴です。今回の実習セミナーでは、日ごろ弟子に指導している訪問診療の義歯の技術の中から、スタモを作るときの注意点や新義歯セット時の咬合調整、顎位が安定しない方の咬合採得テクニックなど、特に重要なテクニックを詳しく解説します。

講師プロフィール

- 前岩手県歯科医師連盟副会長
- 岩手医科大学歯学部歯学会評議員
- 岩手医科大学歯学部臨床教授
- 前盛岡大学評議員
- 前日本歯科臨床医学会実行委員長
- 南カリフォルニア大学歯学部同窓会日本支部理事長
- 一般社団法人 日本訪問歯科協会理事長
- 前ICOI APsection副会長(ICOI JAPAN会長)
- 歯学博士

● サブ会場 Room C / 9:00 - 10:00

認定医講座

訪問歯科診療における 口腔機能低下の見方と対応



藤田保健衛生大学医学部歯科・口腔外科 教授
松尾 浩一郎 氏

高齢者は、口腔内にう蝕や歯牙欠損などの器質的な問題がなくても、咀嚼嚥下に問題が生じたり、栄養状態が不良であったり、肺炎を繰り返したりします。このように高齢者の口腔機能は明らかに低下しています。2016年、日本老年歯科医学会では、幾つかの口腔機能の低下による複合要因により現れる病態を「口腔機能低下症」と提唱しました。これは、7つの下位症状(口腔不潔、口腔乾燥、咬合力低下、舌口唇運動機能低下、低舌圧、咀嚼機能低下、嚥下機能低下)からなり、3つ以上の項目に該当する場合、口腔機能低下症であると定義しました。本講座では、口腔機能低下症の具体的な状態、学会で提唱された機器を用いた口腔機能低下症の測定方法、また、機器を使用しない評価・対応方法などをお話していく予定です。

講師プロフィール

- 1999年 東京医科歯科大学歯学部 卒業
- 1999年 同大学院 高齢者歯科学分野 入局
- 2002年 ジョンスホプキンス大学医学部リハビリテーション講座 研究員
- 2005年 ジョンスホプキンス大学医学部リハビリテーション講座 講師
- 2008年 松本歯科大学障害者歯科学講座 准教授
- 2013年 藤田保健衛生大学医学部歯科 教授
- 2017年 藤田保健衛生大学医学部歯科・口腔外科 教授

Adjunct Assistant Professor, Dept. of Physical Medicine and Rehabilitation, Johns Hopkins University, 愛知学院大学、東京医科、歯科大学、松本歯科大学 非常勤講師 / 日本老年歯科医学会 認定医、指導医、専門医 / 摂食機能療法専門歯科医師 / 日本障害者歯科学会 認定医 / 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会 認定士 / 歯学博士

著書に『若手歯科医師のための高齢者歯科ハンドブック』ほか

● サブ会場 Room B / 12:00 - 13:00

認定訪問歯科コーディネーター講座 ②

介護保険のレセプト作成

一般社団法人 日本訪問歯科協会 医療事務研究班
保 佳希 氏

訪問診療は外来と比べて、提供する文書の多さや、介護保険の請求が発生など非常に複雑です。また、高点数での個別指導にあたっては安心して訪問診療に取り組むためには、医療事務をしっかりと理解する必要があります。この講座では、訪問歯科診療で必要な介護保険の請求についてのポイントを解説いたします。

● サブ会場 Room C / 12:00 - 13:00

認定訪問歯科衛生士講座

歯科衛生士の “伝える力”基礎講座



口腔ケア支援グループ オーラルサポート代表
和田 ひとみ 氏

訪問診療を始めて今年で17年になります。訪問の現場には、外来では知り得なかった患者さんの「生活」がありました。私たち歯科医療従事者に欠けていた「生活者の目線」、そして「全身の中の口」という視点。技術や知識だけでなく、患者目線で考えること、その中でも専門職としての「情報」をどのように伝えていくのか? 業務として「指導」は外来でも日常的に行っていますが、訪問先ではこの「指導」が難しいと感じています。伝えるタイミング、話し方、伝える媒体は? 伝え方ひとつで「指導」は「押し付け」になってしまいます…。今回は、日々の訪問の中で、患者さんやご家族、多職種が教えてくれる大切なことをどれだけ自分の「指導」に生かせるのか、訪問をするにあたっての心構えをお伝えできればと思います。

講師プロフィール

- 1994年 長野県公衆衛生専門学校伊那校卒業
- 1999年 長野市川中島町 宮本歯科医院勤務
- 2008年 宮本歯科医院退職
- フリーランスの歯科衛生士として口腔ケア専門に活動を開始
- 現在、在宅訪問を中心に活動
- 非常勤として、特別養護老人ホーム「やすらぎの園」施設歯科衛生士

- JA長野厚生連南長野医療センター篠ノ井総合病院 口腔外科所属病棟担当歯科衛生士
- 長野県歯科医師会 在宅連携室 非常勤歯科衛生士
- 日本訪問歯科協会認定歯科衛生士研修講師
- その他、介護施設の口腔ケア研修会、ヘルパー研修会、栄養士研修会、介護福祉士会研修会、介護予防教室など 講師

出展企業一覧

会場内案内図(3ページ)の出展ブース番号順になります

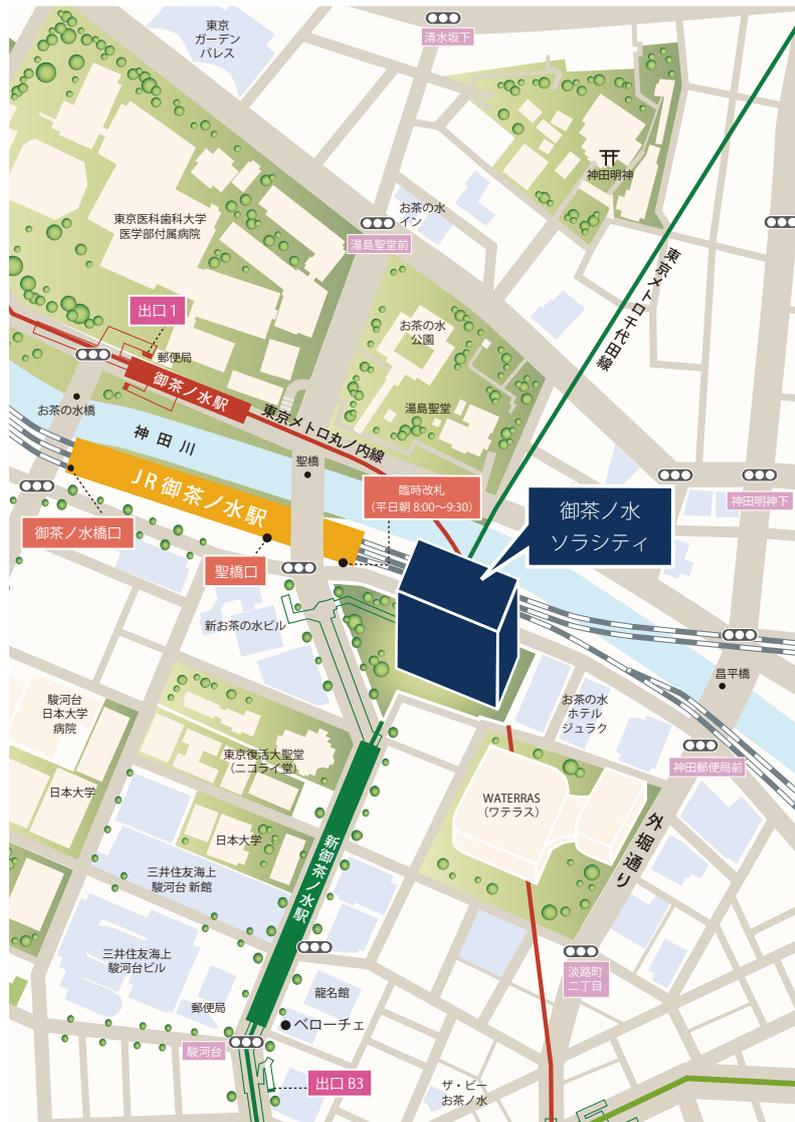
出展企業	出展商品	商品概要
1. 株式会社モリタ TEL 06-6380-1520 大阪府吹田市垂水町3-33-18	ポータキューブ ポートエックスⅢ ポジショニングクッション	訪問診療用器材
2. 株式会社クリニコ TEL 03-3793-4101 東京都目黒区目黒4-4-22	やわらか亭 ビタミンサポートゼリー	介護食、栄養補助食品
3. 東京メディカルスクール株式会社 TEL 03-6802-5260 東京都千代田区神田松永町7 ヤマリビル3F	東京デンタルスクール	歯学部1～6年、国試浪人生の進級、卒業、 歯科医師国家試験対策マンツーマン個別指導
4. 生化学工業株式会社 TEL 03-5220-8955 東京都千代田区丸の内1-6-1	洗口液絹水スプレー	口腔ケア製品
5. 三井住友トラストクラブ株式会社 TEL 03-6871-6931 東京都中央区晴海1-8-10 トリトンスクエアX棟35階	ダイナースクラブカードのご案内	クレジットカード
6. 株式会社コムネット TEL 03-3350-0648 東京都新宿区新宿5-11-4 姫路ビル2F	デンタルサポートシステム 初診カウンセリングシステム	「情報」「ツール」「人」の3つの柱で歯科医院 のコミュニケーション活性化による経営向上を サポートいたします。
7. 横浜金属商事株式会社 TEL 022-226-7704 宮城県仙台市太白区秋保町長袋字上原10-1	歯科用金属	歯科に関わるリサイクル金属とサービス
8. デキシコウインジャパン株式会社 TEL 078-304-5311 兵庫県神戸市中央区港島南町5-5-2 KIBC364号室	デキシコADX4000W デキシコDX3000	バッテリー駆動ポータブルX線装置です。
9. 株式会社ギコウ TEL 03-3360-0555 東京都新宿区西新宿7-18-19 3F	歯科技工物	義歯サンプル模型
10. 一般社団法人 歯科業務標準化機構 TEL 06-6266-5758 大阪府大阪市中央区南船場1-11-9 長堀安田ビル	業務案内	パンフレット・歯科模型
11. 株式会社エントラスト TEL 022-726-5655 宮城県仙台市青葉区国分町1-8-14 2F	デンタルCMS	歯科用ホームページ
12. 株式会社シエン社 TEL 03-3816-7818 東京都文京区後楽1-1-10	歯学書等	演者の先生方の著書をはじめ、訪問歯科、 高齢者歯科等幅広く展示させていただきます。
13. 株式会社シケン TEL 03-3879-5725 東京都足立区千住1丁目11番2号 カーニープレイス千住ビル4F	クラウン、デンチャー等	歯科技工物、入れ歯、器具の除菌機器など
14. 株式会社トクヤマデンタル TEL 03-3835-7202 東京都台東区台東1-38-5 茂商ビル4F	ボンドマーライトレス エステライトユニバーサルフロー ソフライナー他	ボンディング材、コンポジットレジン、裏装材他

出展企業	出展商品	商品概要
15. 日本アイ・エス・ケイ株式会社 TEL 029-869-2001 茨城県つくば市寺具1395-1	新かれんEX、かれんET、 かれんES、Uかれん、ケアかれん	ポータブルユニット
16. 株式会社日本メディックス TEL 04-7193-2237 千葉県柏市若白毛1157	たん吸引器 Qtum	コンパクトタイプの電動型たん吸引器
17. ピクオス株式会社 TEL 03-6277-1860 東京都港区高輪3-24-18 高輪エンパイヤビル	Julea	レセプトコンピューター
18. クインテッセンス出版株式会社 TEL 03-5842-2272 東京都文京区本郷3-2-6	書籍	書籍
19. ワシエスメディカル株式会社 TEL 03-3815-7682 東京都文京区本郷2-31-8	嚥下観察内視鏡、小型吸引器、 パルスオキシメーター、 蘇生器、血圧計、聴診器など	医療機器
20. 三栄メディス株式会社 TEL 075-502-0066 京都府京都市山科区小山鎮守町14-1	ヘルスマニター CheckmePro/Checkme lite	コンパクトな1台に心電計、パルスオキシメータ、 体温計、睡眠時無呼吸症候群の疑いチェック など様々な機能を備えたヘルスマニターです
21. 株式会社桐山・エンタープライズ TEL 058-215-1321 岐阜県岐阜市司町22	ハワイアンスクラブ Monsarrat	医療用スクラブ
22. 株式会社USEN TEL 03-6823-1788 東京都港区北青山3-1-2	デンタルコンシェルジュ	予約管理システム・ユーザー向け ポータルサイト
23. ティーアンドケー株式会社 TEL 03-5640-0233 東京都中央区日本橋堀留町1-5-7	ペプチサルジェントル マウスジェル	口腔内保湿剤
24. バランス株式会社 TEL 076-441-4460 富山県富山市下赤江町1-6-34	ラクーナ飲むゼリー3S おいしいプロテインゼリー パワミナ200ゼリー	飲み込みやすい水分補給ゼリー 栄養補給ゼリー飲料
25. ウエルテック株式会社 TEL 03-3564-5331 東京都中央区銀座4-8-10 PIAS GINZA ビアスグループ銀座オフィス	マウスジェル、マウスリンス、 コンクールF、ジェルコートF他	口腔ケア用保湿剤と予防歯科製品
26. 玉川衛材株式会社 TEL 03-3861-2031 東京都千代田区岩本町2-2-16 玉川ビル	ケアハート口腔専科シリーズ 〔スポンジブラシ、万能ブラシ、ウェット シート、ジェル、スプレー、入れ歯洗浄 剤、入れ歯ケース、入れ歯ブラシ〕	口腔ケア用品全般
27. 一般社団法人 日本訪問歯科協会 TEL 0120-299-505 東京都千代田区神田西福田町4 ユニゾ神田西福田町ビル8F	DVD・書籍等	訪問歯科診療に役立つ教材・セミナー等
28. 日本歯科薬品株式会社/他 資料展示 TEL 083-222-2221 山口県下関市西入江町2-5	お口を洗うジェル(広告協賛)	口腔ケア用ジェル(広告協賛)

会場アクセス



御茶の水 ソラシティ カンファレンスセンター sola city Conference Center



● 交通

JR中央線・総武線「御茶の水」駅
聖橋口から 徒歩1分

東京メトロ千代田線「新御茶の水」駅
B2出口【直結】

東京メトロ丸ノ内線「御茶の水」駅
出口1から 徒歩4分

都営地下鉄 新宿線「小川町」駅
B3出口から 徒歩6分

〒101-0062
東京都千代田区神田駿河台4-6
御茶ノ水ソラシティ
TEL:03-6206-4855
FAX:03-6206-4854
mail:info-cc@solacity.jp

お客様用の駐車場はご用意がございません。ご来場の際は、公共交通機関をご利用ください

〈実行委員〉学 会 長

野坂 洋一郎 岩手医科大学名誉教授 つくば歯科衛生専門学校 校長

実行委員長

守口 憲三 一般社団法人 日本訪問歯科協会 理事長 守口歯科クリニック 院長

実行委員

近藤 公一郎 一般社団法人 日本訪問歯科協会 北日本ブロック長 近藤歯科医院 院長

清水 政紀 一般社団法人 日本訪問歯科協会 関東ブロック長 井澤歯科医院 院長

桐山 立志 一般社団法人 日本訪問歯科協会 中部ブロック長 医療法人桐華会 桐山歯科医院 理事長

西村 有祐 一般社団法人 日本訪問歯科協会 関西ブロック長 医療法人祐愛会西村歯科 理事長

二木 由峰 一般社団法人 日本訪問歯科協会 中国ブロック長 医療法人社団峰良会 理事長

樋口 泰史 一般社団法人 日本訪問歯科協会 四国ブロック長 ひぐち歯科医院 院長

青山 修 一般社団法人 日本訪問歯科協会 九州ブロック長 医療法人社団 秀歌会 青山歯科医院 理事長

木川 仁志 一般社団法人 日本訪問歯科協会 監事 キカワ歯科医院 院長

〈運

営〉 一般社団法人 日本訪問歯科協会 事務局



一般社団法人

日本訪問歯科協会

事務局

〒101-0037 東京都千代田区神田西福田町4 ユニゾ神田西福田町ビル8F

TEL 0120-299-505

第17回 日本訪問歯科医学会

やさしさとやりがい 訪問歯科診療
ー オーラルフレイルへの対応 ー

